

令和元年度天皇杯受賞者受賞理由概要  
多角化経営部門

経営理念「笑顔創造」がつくりだす「ユニバーサル農業」

○氏名又は名称 京丸園株式会社（代表 鈴木 厚志）

○所在地 静岡県浜松市

○出品財 経営（芽ねぎ、ミニちんげん菜、ミニみつば）

○受賞理由

・地域の概要

京丸園株式会社が位置する浜松市南区には天竜川が流れており、土壌は天竜川の沖積層で肥沃な砂土壌である。また、天竜川の西岸のすぐ脇を安部川が流れており、地下水の水位も高く、水質も良い豊富な水源に恵まれている。そして、浜松市の年間平均気温は16℃前後、降水量は約1,800～2,000mmと温暖な気候に恵まれており、日照時間は全国トップクラスの2,200時間ほどである。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

平成16年に家族経営から法人経営に移行し、多様な人たちが活躍できる「ユニバーサル農業」を推進しており、100名の従業員のうち約25%が障がい者で、年齢層も18歳から82歳までと幅広い。また、全国初となる量産芽ねぎの水耕栽培やミニちんげん菜の周年量産、みつばの小型化など、付加価値の高い独自の商品開発を行い、収益性を確保するとともに、オリジナルブランドを確立している。

・受賞者の特色

(1) 多様な人の力を結集したユニバーサル農業

多様な人が活躍できる『場』を創り出す「ユニバーサル農業」では、高齢者や障がい者も職員として働くことができるように作業環境を整備する必要があり、ミニちんげん菜の定植やトレーの洗浄、収穫・洗浄・検品・パッキングの作業機械などを自社開発して省力化・効率化を図るとともに、働きに応じた労働報酬を実現している。

(2) ユニバーサル農業の取組拡大

障がい者をパートナーとする「ユニバーサル農業」の普及を図るため、NPO法人しずおかユニバーサル園芸ネットワークや浜松市ユニバーサル農業研究会を立ち上げ、農業と福祉と企業の連携モデルを構築している。

・普及性と今後の発展方向

GAPの実践により、農作業が安全であり、行程を管理できるようになる。そして、農業が多様な人たちの活躍する『場』となり、農業の活性化と経営強化となる仕組みを確立させるため、京丸園は今後、健常者60名、障がい者40名、男女比5：5、10歳代から90歳代が活躍できる経営体を目指している。